

滝川 睦教授 略歴・業績

〈略 歴〉

- 1977年 3月 名古屋市立向陽高等学校卒業
- 1981年 3月 静岡大学人文学部人文学科卒業
- 1983年 3月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程（前期課程）修了
- 1984年 9月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程（後期課程）中途退学
- 1984年10月 岐阜大学教養部外国語第一系列助手
- 1987年 4月 岐阜大学教養部外国語第一系列講師
- 1991年 8月 岐阜大学教養部外国語第一系列助教授
- 1995年 1月 文部省在外研究員（ロンドン大学、1995年11月まで）
- 1997年 4月 名古屋大学文学部助教授（併任）
- 1998年 4月 名古屋大学文学部助教授（転任）
- 2000年 4月 名古屋大学大学院文学研究科助教授
- 2005年 2月 名古屋大学大学院文学研究科教授
- 2017年 4月 名古屋大学大学院人文学研究科教授

賞 罰 第6回 第7号 IVY AWARD（名古屋大学英文学会）受賞（1994年4月）

〈業 績〉

著 書

- 1 『境界線上の文学——名古屋大学英文学会第50回大会記念論集』（共編著）彩流社、2013年3月。
- 2 『英米文学における父の諸変奏——安田章一郎先生百寿記念論集——』（共編著）英宝社、2016年3月。

編 書

- 1 *Ivy Never Sere: The Fiftieth Anniversary Publication of The Society of English Literature and Linguistics, Nagoya University*. Otowa-Shobo Tsurumi-Shoten, 2009.

論 文

- 1 「ヤコブソンとシェイクスピアのソネット129番」『IVY』第18巻（1984年）、pp. 1-4.
- 2 「バンクォウと‘沈黙’——『マクベス』の宴の場をめぐって——」『中部英文学』第7号（1985年）、pp. 11-22.
- 3 「糸巻棒と槍——『じゃじゃ馬ならし』における‘さかさま世界’——」『岐阜大学教養部研究報告』第21号（1986年）、pp. 229-245.

- 4 「ベン・ジョンソンとシャリヴァリ——『エピソード』——」『岐阜大学教養部研究報告』第22号（1987年）、pp. 251-261.
- 5 「‘水’考——『アントニーとクレオパトラ』研究——」『岐阜大学教養部研究報告』第23号（1988年）、pp. 187-199.
- 6 「『タイタス・アンドロニカス』における凱旋式」『IVY』第21巻（1988年）、pp. 15-31.
- 7 「『マクベス』・王権・通過儀礼」『岐阜大学教養部研究報告』第25号（1990年）、pp. 363-375.
- 8 「Prospero と Perspective —— *The Tempest* 研究——」『岐阜大学教養部研究報告』第28号（1993年）、pp. 233-256.
- 9 「“Transgressing Nature’s Law” —— *The Taming of the Shrew* とシャリヴァリ——」『中部英文学』第12号（1993年）、pp. 1-17.
- 10 「*Hamlet* における記憶術と霊操」『IVY』第26巻（1993年）、pp. 17-38.
- 11 「新歴史主義批評と唯物主義フェミニズム批評——*As You Like It* をめぐって——」『岐阜大学教養部研究報告』第29号（1994年）、pp. 69-82.
- 12 「邪視と王権——*King Richard III* 研究——」『Helicon』第3号（1994年）、pp. 33-49.
- 13 「*The Spanish Tragedy* における記憶術」『岐阜大学教養部研究報告』第30号（1994年）、pp. 177-191.
- 14 「*Love’s Labour’s Lost* における眼のイメージについて」『岐阜大学教養部研究報告』第31号（1995年）、pp. 139-153.
- 15 「Actaeon の変貌——*Twelfth Night* 研究——」『岐阜大学教養部研究報告』第34号（1996年）、pp. 199-211.
- 16 「野人としての Timon——*Timon of Athens* 研究——」『岐阜大学地域科学部研究報告』第1号（1997年）、pp. 263-277.
- 17 「演劇の検閲・夢の検閲——*A Midsummer Night’s Dream*——」『名古屋大学文学部研究論集』第45巻（1999年）、pp. 107-120.
- 18 「詩神が孕む——*Othello* における男同士の絆——」『名古屋大学文学部研究論集』第46巻（2000年）、pp. 99-110.
- 19 「近代初期英国における演劇論争と *Hamlet*」『名古屋大学文学部研究論集』第47巻（2001年）、pp. 39-51.
- 20 「*Measure for Measure* における中傷と恩赦」『名古屋大学文学部研究論集』第48巻（2002年）、pp. 23-35.
- 21 「中傷・主体性・自己劇化——*Othello*——」『名古屋大学文学部研究論集』第49巻（2003年）、pp. 27-36.
- 22 「Queen Mab はどこから来たのか——*Romeo and Juliet* における Queen Mab speech をめぐって——」『名古屋大学文学部研究論集』第50巻（2004年）、pp. 51-61.
- 23 「“But Masters, Remember That I Am an Ass”——*Much Ado about Nothing* における邪視と中傷——」『名古屋大学文学部研究論集』第51巻（2005年）、pp. 37-49.
- 24 「“Here’s a Fellow Frights / English Out of His Wits”——*The Merry Wives of Windsor* における Englishness」『名古屋大学文学部研究論集』第52巻（2006年）、pp. 1-8.

- 25 「チャイルド・マリッジ考——『ロミオとジュリエット』——」『文学批評競演——源氏・賢治・ジュリエット』名古屋大学大学院文学研究科公開シンポジウム「源氏・賢治・ジュリエット」報告書（2006年）、pp. 33-51.
- 26 「Christopher Slyはどこへ消えたのか——*The Taming of the Shrew* と近代初期英国における放浪との関連性について」『名古屋大学文学部研究論集』第53巻（2007年）、pp. 1-14.
- 27 「“O, How This Mother Swells Up toward My Heart!”——*King Lear* における放浪の諸相——」『名古屋大学文学部研究論集』第54巻（2008年）、pp. 39-51.
- 28 「*Coriolanus* における放浪と女性化をめぐる不安」『名古屋大学文学部研究論集』第55巻（2009年）、pp. 11-23.
- 29 「近代初期英国における演劇反対論的言説と *The Two Gentlemen of Verona*」『名古屋大学文学部研究論集』第56巻（2010年）、pp. 19-31.
- 30 「国王のスペクタクルとマスターレス・マン——*Macbeth* における宴の場再考——」『名古屋大学文学部研究論集』第57巻（2011年）、pp. 1-14.
- 31 「*Twelfth Night* における Viola のフィギュレンポジツィオン」『名古屋大学文学部研究論集』第58巻（2012年）、pp. 13-24.
- 32 「着衣と脱衣の詩学——Shakespeare 喜劇における——」『名古屋大学文学部研究論集』第59巻（2013年）、pp. 35-53.
- 33 「女王と毒入りワインの杯——*Hamlet* における忘却と記憶術——」『名古屋大学文学部研究論集』第60巻（2014年）、pp. 37-50.
- 34 「『十二夜』における寡婦としてのオリヴィア」『名古屋大学文学部研究論集』第61巻（2015年）、pp. 37-51.
- 35 「シェイクスピア劇における宴の変容——『ハムレット』と『テンペスト』——」『名古屋大学文学部研究論集』第63巻（2017年）、pp. 15-29.
- 36 「ダイエットの詩学——シェイクスピアの四大悲劇における——」『名古屋大学人文学研究論集』第1号（2018年）、pp. 55-71.
- 37 「『アテネのタイモン』再考——近代初期英国における食事文学の視座から——」『名古屋大学人文学研究論集』第2号（2019年）、pp. 89-99.
- 38 「「ヤヌス神にかけて誓って」——『オセロ』と古代ローマ喜劇——」『名古屋大学人文学研究論集』第3号（2020年）、pp. 23-38.
- 39 「エコーの変身——『ナルキッソス』と『十二夜』における——」『名古屋大学人文学研究論集』第4号（2021年）、pp. 89-104.
- 40 「『終わりよければすべてよし』におけるカニング・ウーマン」『名古屋大学人文学研究論集』第5号（2022年）、pp. 13-28.
- 41 「*Much Ado About Nothing* における眼差しのレッスン」『IVY』第55巻（2022年）、pp. 1-17.
- 42 「草食性カニバルと *The Tempest*」『名古屋大学人文学研究論集』第7号（2024年）、pp. 113-127.

学会発表

- 1 「ヤコブソンとシェイクスピアのソネット129番について」名古屋大学英文学会第21回総会コロキウム（1982年4月、於 名古屋大学）.

- 2 「『エヴリマン』と理想的人間像」名古屋大学英文学会第22回総会コロキウム（1983年4月、於 名古屋大学）.
- 3 「中断された宴——*The Tempest* 試論」日本英文学会中部地方支部第36回大会（1983年10月、於 金沢大学）.
- 4 「*The Tempest* における‘島’」名古屋大学英文学会第23回総会（1984年4月、於 名古屋大学）.
- 5 「*The Tempest* における〈視線の政治学〉」名古屋シェイクスピア研究会9月例会（1984年9月、於 名古屋大学）.
- 6 「*Macbeth* とパジャントリー」日本英文学会中部地方支部第38回大会（1985年10月、於 南山大学）.
- 7 「シャリヴァリと熊いじめ——*Epicoene* について」シェイクスピア学会第25回大会（1986年10月、於 名古屋大学）.
- 8 「シェイクスピアと『凱旋歌集』」名古屋大学英文学会第27回大会（1988年4月、於 名古屋大学）.
- 9 「シェイクスピアと『凱旋歌集』(*Trionfi*)」日本英文学会第60回大会（1988年5月、於 名古屋大学）.
- 10 「魔女と豊饒——『マクベス』における‘ベナンダンティ’の戦い」名古屋シェイクスピア研究会4月例会（1990年4月、於 名古屋大学）.
- 11 「『十二夜』を読む——宮廷風恋愛と民衆文化の接点に焦点を絞りながら——」日本英文学会中部地方支部第42回大会（1990年10月、於 福井大学）.
- 12 「邪視と王権——『リチャード三世』について」名古屋シェイクスピア研究会9月例会（1993年9月、於 名古屋大学）.
- 13 「*Much Ado about Nothing* における Defamation と Sexual Slander」日本英文学会第69回大会（1997年5月、於 宮城学院女子大学）.
- 14 「芝居の検閲・夢の検閲——*A Midsummer Night's Dream*——」名古屋大学英文学会第37回大会（1998年4月、於 名古屋大学）.
- 15 「シェイクスピアにおけるオリエンタリズムと身体」日本英文学会中部支部第50回記念大会シンポジウム『シェイクスピアの身体を腑分けする——現代批評の視点から——』（司会兼講師）（1998年10月、於 名古屋大学）.
- 16 「Queen Mab はどこから来たのか」シェイクスピア学会第41回大会（2002年10月、於 東京女子大学）.
- 17 「ワイルド・マンの変容——*The Two Gentlemen of Verona*, *The Faerie Queene* 第六巻、*Valentine and Orson*」日本英文学会第76回大会（2004年5月、於 大阪大学）.
- 18 「“Here’s a Fellow Frights / English Out of His Wits” ——*The Merry Wives of Windsor* における Englishness」日本英文学会中部支部第57回大会シンポジウム『ルネサンス文学と Britishness / Englishness』（2005年10月、於 愛知大学）.
- 19 「“I know him—a wears a lock” ——*Much Ado about Nothing* における Self-Fashioning」名古屋大学英文学会第49回大会シンポジウム『綾を読む——近代初期英国文学と服飾文化』（2010年4月、於 名古屋大学）.

- 20 「*Macbeth* における Banquet 再考」シェイクスピア学会第49回大会（2010年10月、於 福岡女学院大学）.
- 21 「大衆演劇シェイクスピアと女形」日本英文学会中部支部第65回大会シンポジウム『大衆演劇とシェイクスピア劇』（2013年10月、於 梶山女学園大学）.
- 22 「ダイエットの詩学——近代初期英国における——」日本英文学会中部支部第69回大会シンポジウム『食卓のイギリス——エリザベス朝からロマン主義まで』（2017年10月、於 福井大学）.
- 23 「ローゼンクランツとギルデNSTAUNENは死んだ？——シェイクスピアと「脇役」の伝統」日本英文学会中部支部第71回大会シンポジウム『英文学と〈脇役〉』（2019年10月、於 三重大学）.
- 24 「装うシェイクスピア——『リア王』——」名古屋大学英文学会第59回大会シンポジウム「シェイクスピアが騙す」（司会兼講師）（2021年9月、於 ウェブ開催）.

翻 訳

- 1 ベリー、エドワード. 『シェイクスピアの人類学——喜劇と通過儀礼——』（共訳）名古屋大学出版会、1989年10月.

書 評

- 1 Wayne, Valerie, ed. *The Matter of Difference: Materialist Feminist Criticism of Shakespeare* (Harvester Wheatsheaf, 1991). 『英文学研究』第70巻第1号（1993年）、pp. 80–84.
- 2 大石和欣 『家のイングランド——変貌する社会と建築物の詩学』、『IVY』第53巻（2020年）、pp. 49–54.

研究成果報告書

- 1 「近代初期英国における中傷文学の研究」平成12–14年度科学研究費補助金（基盤研究(C) (2)) 研究成果報告書、2003年3月.
- 2 「数秘学および空間論的視座からの近代初期英国の詩学に関する研究」平成15–17年度科学研究費補助金（基盤研究(C)) 研究成果報告書、2006年3月.
- 3 「演劇論および身体論的視座からの近代初期英国における服飾文化に関する研究」『服飾文化共同研究報告2008』（服飾文化共同研究拠点 文化女子大学（現 文化学園大学）文化ファッション研究機構）、2009年6月.
- 4 「演劇論および身体論的視座からの近代初期英国における服飾文化に関する研究」『服飾文化共同研究報告2009』（服飾文化共同研究拠点 文化女子大学（現 文化学園大学）文化ファッション研究機構）、2010年4月.

講 演

- 1 「シェイクスピア——歴史とカーニヴァル」平成6年度岐阜大学公開講座『歴史との対話——時代を開いた個性たち——』、1994年10月.
- 2 「近代初期英国のユートピア思想——シェイクスピアを中心に」岐阜大学地域科学部第1回公開講座『いのちを考える——生命と環境をめぐる諸問題——』、1997年11月.

- 3 「チャイルド・マリッジ考——『ロミオとジュリエット』——」名古屋大学文学研究科公開シンポジウム『文学批評競演——源氏・賢治・ジュリエット』、2006年3月。
- 4 「舞台の上で〈ふみ〉を〈よむ〉——シェイクスピア劇の場合——」第16回名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン ふみよむゆふべ、2009年6月。
- 5 「〈おくりびと〉シェイクスピア」岐阜市立女子短期大学 特別講義、2009年6月。

新聞記事

- 1 「近代初期英国のユートピア思想」中日新聞朝刊11面『岐大の新学部地域科学部が誕生し1年 公開講座を紹介——テーマ「いのちを考える」③』、1997年12月。

競争的資金（研究代表者）

- 1 1986年度：科学研究費 奨励研究(A) 「英国ルネサンス期におけるパジャントリー (pageantry) 研究」(研究課題番号61710264)
- 2 1987年度：科学研究費 奨励研究(A) 「英国ルネサンス期における『凱旋歌集』 *Trionfi* 受容の研究」(研究課題番号62710265)
- 3 1989-1990年度：科学研究費 一般研究(C) 「英国ルネサンス期演劇における〈記憶術〉受容の研究」(研究課題番号01510274)
- 4 1991年度：科学研究費 奨励研究(A) 「英国ルネサンス期における魔女文学と民衆的祝祭の関連性についての研究」(研究課題番号03851079)
- 5 1992年度：科学研究費 奨励研究(A)萌芽 「英国ルネサンス期における〈新世界〉受容とパジャントリーの関連性についての研究」(研究課題番号04851073)
- 6 1993年度：科学研究費 奨励研究(A)萌芽 「英国ルネサンス期におけるパストラル文学と農村・都市の変動との関連性についての研究」(研究課題番号05851068)
- 7 1994年度：科学研究費 奨励研究(A)萌芽 「英国ルネサンス期パジャントリー及び演劇と建築空間との形態的関連性に関する研究」(研究課題番号06851058)
- 8 1996-1997年度：科学研究費 萌芽的研究 「身振り学的視座からの英国ルネサンス期演劇研究」(研究課題番号08871052)
- 9 1998-1999年度：科学研究費 萌芽的研究 「観客論的視座からの近世初期英国のインタールード研究」(研究課題番号10871062)
- 10 2000-2002年度：科学研究費 基盤研究(C)(2) 「近代初期英国における中傷文学の研究」(研究課題番号12610489)
- 11 2003-2005年度：科学研究費 基盤研究(C)(2) 「数秘学のおよび空間論的視座からの近代初期英国の詩学に関する研究」(研究課題番号15520165)
- 12 2006-2008年度：科学研究費 基盤研究(C)(2) 「近代初期英国における放浪文学と社会的変動との関連性についての研究」(研究課題番号18520190)
- 13 2008-2010年度：文部科学省「人文学および社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」(文化女子大学(現 文化学園大学)文化ファッション研究機構)委託費による「服飾文化共同研究」研究課題「演劇論および身体論的視座からの近代初期英国における服飾文化に関する研究」(共同研究番号20010)

- 14 2010–2012年度：科学研究費 基盤研究(C) 「近代初期英国における奉公人文学と社会的流動性との関連性についての歴史的研究」(研究課題番号22520238)
- 15 2013–2015年度：科学研究費 基盤研究(C) 「近代初期英国における寡婦・寡夫文学と若者文化との関連性についての歴史的研究」(研究課題番号25370280)
- 16 2016–2018年度：科学研究費 基盤研究(C) 「近代初期英国における食事文学についての歴史的・文化史的研究」(研究課題番号16K02447)
- 17 2020–2022年度：科学研究費 基盤研究(C) 「近代初期英国演劇におけるホスピタリティー表象の変遷に関する歴史的研究」(研究課題番号20K00414)
- 18 2023–2025年度：科学研究費 基盤研究(C) 「近代初期英国演劇における感情理論と身振り学との関連性についての歴史的研究」(研究課題番号23K00396)